

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇国際会議「APVN & GVC」のオンライン開催について

■ [随想](#)

◇政策判断と科学的根拠

国際連合工業開発機関（UNIDO）東京事務所 安永 裕幸 博士（工学）

■ [編集後記](#)

■ トピックス

◇国際会議「APVN & GVC」のオンライン開催について

コロナの影響で、VEC が参加する 2021 年度の国際会議も前年度に引き続き軒並みオンライン開催となりました。いわゆる Face to Face の議論・情報交換ができない等のデメリットはありますが、プレゼンテーション内容の充実、参加者の増加などのメリットもあるようです。

今回は、2021 年秋からこの冬にかけて開催された APVN（Asia Pacific Vinyl Network）と GVC（Global Vinyl Council）の総会について報告します。両会議は毎年開催され、各国の市場動向、規制動向、政策動向、リサイクル、関連業界の動き等について報告及び意見交換が行われます。

APVN 総会@2021 年 11 月 18 日（オンライン参加者約 57 名）：

オーストラリアを含むアジア地域の PVC 関連業界の企業・団体関係者で構成する APVN 総会は今年度で 26 回目の開催。まず、ゲストスピーカーとして [Platts](#) のアジア石油化学担当より PVC の市況情報について講演があり、2021 年秋口に中国の“Dual Control”ポリシー（エネルギー消費の削減とエネルギー使用の効率化を推進する政策）により電力の供給が不安定となりカーバイドベースの PVC 稼働に大きな影響があったとの情報提供がありました。二人目のゲストスピーカーの [PTT GC](#) 社担当者からタイの BCG（バイオ・サーキュラー・グリーン）経済政策について説明がありました。三人目のゲストスピーカーはタイのチュラロンコン大学の助教授で、PVC のリサイクル（主にマテリアルフロー）について報告がありました。これは、AVC（ASEAN Vinyl Council）との共同研究の報告で、PVC のマテリアルフロー分析手法の独自性（製品寿命から廃プラ排出量を推計する手法）が注目されました。以降の各国のエリアレポートについてのトピックスは以下の通り。

ASEAN：AVC によるタイ・インドネシアでの PVC リサイクルのデータベース構築、タイの廃 PVC 輸入禁止措置、インドネシア・フィリピン・ベトナムでの PVC 関係 LCA 研究の紹介。

豪州：病院の PVC 製品リサイクル、TexBack（ターポリンのリサイクルシステム）プログラム、廃 PVC の活用研究の紹介。

中国：PVC 業界のポリシー（業界再編、カーボンピーク行動計画他）、PVC 生産能力増強の紹介。

インド：“Tap Water for All”政策（全ての家庭に上水道を普及させる政策）、鉛安定剤問題（水道配管の鉛含有規制）、PVC プラント新設計画。

韓国：PVC 製品（プロファイル、床材、パイプ、ケーブル）のリサイクル規制、リサイクルプラの用途規制の解説。

パキスタン：Think PVC（PVC 製品のショールーム）、市場での懸念点。

台湾：VCM と EDC の排出規制強化（工場境界）の動向。

GVC 総会@2022 年 1 月 19 日（オンライン参加者約 40 名）：

通常であれば、二日間の日程で開催されるが、オンライン開催のため 2 時間に変更し、プレゼン資料（主に各国・エリアの市場情報）を事前配布し効率化を図りました。APVN 関連を除き以下にトピックスを記載します。

ECVM（The European Council of Vinyl Manufacturers）：環境 NGO 対策、PVC パイプ溶出物のモデリング理論、PVC の LCA データの更新、VinylPlus 2030、化学物質の規制の検討について。

ロシア：ロシアの PVC 協会の紹介。

南アフリカ：SAVA（South Africa Vinyl Association）によるメディア展開、PVC ラップフィルム（工場端材等）のリサイクル活動の紹介。

アルゼンチン：AAPVC（Argentina Association Del PVC）が SNS を活用した PVC の PR。

ブラジル：IBPVC（Instituto Brasileiro do PVC）が SNS の活用、技術標準の作成。

コロンビア：ACOPLÁSTICOS（コロンビアの石油化学品協会）が電線管での PVC 規制対応、SUP（使用済プラ）規制対応。

米国：VSC（Vinyl Sustainability Council）の活動報告、PVC 関連法規制対応。

カナダ：VI Canada による樹脂窓と病院での PVC リサイクル事業。

今回の会議を通じて海洋プラスチック問題や循環経済への移行がより大きな問題となってきたという認識が共有されました。また、日・米・欧以外の地域への先行知見の提供・共有やリサイクル技術の展開などの重要性が再認識される会議となりました。

両会議に参加してみて、塩ビ製品に関する生産動向等貴重なデータが入手できるとともに、規制動向についても各国もしくは各地域でまさに議論中の生々しい話を聞くことができ、大変有益でした。21 世紀になり 20 年以上経ちますが、現在においても科学的知見に基づく冷静な議論が行われているとは必ずしも言えず、一部の過激な議論が跋扈しているのではないかと懸念しています。VEC としては、正しい情報に基づいて塩ビ及びその製品が適切に取り扱われるよう、APVN 及び GVC のメンバーと協力しつつ活動していく所存です。

■ 随想

◇政策判断と科学的根拠

国際連合工業開発機関（UNIDO）東京事務所 安永 裕幸 博士（工学）

最近、「科学と政策」の関係についての議論が色々なところから良く出てきます。最も身近なところでは、「オミクロン株の毒性と感染力と、その予防策のあり方」でしょう。

「科学的根拠」に基づく対策（政策）が求められるのは、いつも変わらない訳ですが、それが必ずしも簡単ではないのは、皆さんご承知のとおりです。COVID-19のケースではまずその「症状がどんなものか？」「どういう状況なら周りの人達に感染しやすいのか？」という議論から始まる訳ですが、2年前にはそういうことすら「手探り」であったし、飛沫が飛ぶのが感染の主要因だということが共有されると、ご記憶のとおり、「マスクが不可欠。だが、マスクが足りない！！」という騒動になり、政府が各家庭に2枚ずつ配った例の布マスクが様々な評価を受けたり、ドラッグストアでは一時期、普通の不織布マスクが超高値で売られたりしました。更に言えば、アルコールや次亜塩素酸水等の消毒液やその散布方法についても、喧々譁々の大議論になりました。

次いでは、ワクチンの話題です。通常のケースだと、薬事承認に必要な期間を含めれば、ワクチン開発に5年とか10年の期間がかかるのは当たり前（常識）だった訳ですが、いつの間にか、海外の大手製薬会社はまあ瞬く間にワクチンを開発し、我々も昨年の春～秋にかけて一気に接種が進んだ訳です。結局ワクチンは1年くらいで世に出てきたことになりましたが、それで何も問題は無かったのだろうか？ 私などは60歳ですからまあどうでもいいとして、これから妊娠の可能性のある若い女性等に悪影響がないことは本当に立証されているのだろうか？ もし本当に問題がないのだとしたら、薬事承認のプロセスに何か改善すべきことはないのだろうか、といったことですね。現在、日本が直面している「3度めのブースター接種」や「異種ワクチンの交差接種の有効性」についても然りですね。

「日本人は重症化率が低い」という、いわゆる『ファクターX』の問題も気になります。確かに、統計数値を見ていると、どうもそうらしい。でも理由は？ マスクをきちんと着用する従順な国民性？ よく手を洗う清潔好きな生活様式？ いや、BCG接種がほぼ国民全員に行きわたっているから？ それとも既に過去のインフルエンザか何かで集団免疫的なモノが出来ている？

種々の説がありましたが、今に至っても信憑性の高い説明を聞いたことがありません。もう相当のデータが揃った筈だと思うのですが、どうなっているのかな？

そう言えば、「COVID-19 人工ウィルス説（更に言えば生物兵器説）」もありましたね。これについても、野次馬的には大変面白いのですがどこまでが客観的事実でどこまでがフィクションなのかがよく分からないので、何のどこがどれくらい脅威なのかが把握できない。現時点では「突然変異で生じると言われるウィルスの変異株というものは、常に“感染力はより強く、重症化率はより低く“なる、という方向で生まれてくるのか、そうではないのか」

といった点が多くの人達の関心の的ですよ。感染メカニズムの解明や防御法の研究開発に併せ、是非、こういうことについても科学の目で実相を明らかにしてもらいたいものです。

私は科学者ではありませんが、科学者(マスコミ的には有識者と言われる)というものは、未知の課題については、実に慎重な対応をせざるを得ない訳です。上記のような問いかけに対して、最も優れた科学者の最も無難な答えは、「まだ分かりません」しかない筈です。しかしそれでは何ら対策に関する提言ができない(「更に検討が必要」ということを除けば)ので、過去の、あるいは周辺の知見から「どうもそれらしい」見解を出して来ざるを得ません。私達「一般人」としても、彼らが率直な(政治的な要素に過度に振り回されず)見解を発出することに対して偏見を持たず、かと言って「まだ分からないことは、まだ分からないと言って貰っていい」という割り切りを持ち、それをベースに政策当局が「100%確実な対策は無いが、こうすればリスクの最小化と、社会活動の最低限の維持が可能」というラインを冷静に(多少の朝令暮改も認めて、また、デメリットやコストも率直に)打ち出してくれることを懇願しないとイケないのではないかと考えています。

■ 編集後記

外務省が海外向けに日本の文化や一般事情等を情報提供しているサイトに「Web Japan」がありますが、その中の「Kids Web Japan」のコーナーで「学校での環境への取り組み」のページに VEC の展示会の様子が掲載されました。これは環境に配慮した製品やサービスを紹介する展示会に参加して、ブースを見学しながら SDGs に関する取り組みについて学んでいる事例です。以下の URL からご覧ください。

https://web-japan.org/kidsweb/ja/cool/21/202112_help-the-environment_ja.html

VEC では環境配慮や SDGs 貢献などプラスチック教育に関わる啓発活動の一環として [出前授業](#) も行っています。

■ 関連リンク

- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp